

T T C 提案山行実施記録

2018. 10. 30 報告者 : Y. S

山行名	ひょうのせん 氷ノ山 (1,510m)						兵庫県
実施日	2018年10月27日(土)～28日(日) 1泊2日 公共交通機関利用						
天候/参加人員	天候 10/27: 晴れのちくもり 10/28: くもりのち晴れ レベル: ★★★ 参加人員 8名(TTC6名・厚木山歩会2名)						
スタッフ	CL: SL兼カメラ: 救護: 会計: 食当:						
参加メンバ							
費用 (現地実費精算) 3,850円/人	バス代: 2,150円/人(八鹿駅～氷ノ山鉢伏口 970円、氷ノ山鉢伏口～但馬農高前 880円、但馬農高前～八鹿駅 300円)、共同食材費: 1,000円/人、入浴代: 700円/人 参考: 本厚木～(IC)～小田原～京都～八鹿往復運賃 18,826円、小田原～京都～八鹿往復特急座席指定券 12,040円						
歩行/行動時間		10月27日(土)			10月28日(日)		
		歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
	計画	4:00	1:20	5:20	-	-	-
	実行	3:40	1:05	4:45	3:25	0:35	4:00
実行タイム	<p>10月27日(土)</p> 本厚木 5:06 == 5:48 小田原 6:15 == 7:59 京都 8:36 == 10:32 八鹿 10:40 == 11:31 氷ノ山鉢伏口 11:40 0:20 1:05 0:50 ……12:00 福定親水公園登山口(昼食)12:25…(休 0:05)…13:35 地蔵堂通過…(休 0:05)… 0:25 0:45 14:30 弘法の水(湧水)ひえの水場で汲水 14:55…15:20 氷ノ山越避難小屋通過…(休 0:05)…16:10 0:15 仙谷分岐通過…16:25 氷ノ山山頂避難小屋 <p>10月28日(日)</p> 0:35 0:35 0:40 氷ノ山山頂避難小屋 7:20…7:55 神大ヒュテ 8:05…8:40 一の谷水場 8:45…9:25 東尾根休憩小屋 0:35 0:40 0:20 9:35…10:10 国際スキー場WC前 10:15…10:55 福定親水公園登山口 11:00…11:20 氷ノ山鉢伏口 11:40 == 12:20 但馬農高前: 道の駅ようか(昼食)13:00…13:10 とがやま温泉天女の湯 14:40… 14:50 但馬農高前 15:03 == 15:18 八鹿 15:59 == 18:08 京都 18:32 == 20:36 小田原 20:58 == 本厚木 21:38						
コースの概要・特記事項・反省事項等							
コースの概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・福定親水登山口から登り、地蔵堂を過ぎた標高 1,100m 付近に「ひえの水(夏場も涸れない)」、標高 1,150m 付近に「弘法の水」、標高 1,200m 付近に「一口の水」、計3箇所の水場があったが、当日は「弘法の水」が涸れていた。 ・氷ノ山越避難小屋は小さく定員6名ほどの広さだった。 ・氷ノ山山頂避難小屋は、先客5名+我々8名で、食事や寝るスペースとして丁度良い人数だった。毛布10数枚、敷布団10枚ほど配備されていたので使わせてもらった。外トイレが 30mほど離れていたが、管理が行き届き清潔に保たれていた。 ・山頂周囲は熊笹に覆われ、何も遮る物がなく満天の星空を見ることができた。 ・標高 1,350m 以上は紅葉が終わっていた(先日の台風で散った)が、標高 600～1,350m あたりが紅葉真っ盛りだった。 ・神大ヒュッテから一の谷水場までに3箇所ほど湧水が出ていた。 							
特記事項⇒反省事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・出発4日前に下山出口となる「栗の下」のバス時刻表を確認したところ、日曜日は運休と知り、神大ヒュッテから福定親水公園登山口に戻るコースに計画を変更した。⇒事前の下調べが不足していたので反省しています。 ・初日の水場「ひえの水」は水量が乏しかったので、2番目の「弘法の水」に期待したが全くの涸山水だった。全員の空ボトルを集め、3名で「ひえの水」まで戻り、今後必要な水約10リッターを汲んだ。⇒これによるロス時間は 25 分だったものの「ひえの水」を見送ったのは、CLの誤った判断だった。ちなみに一番上にあった「一口の水」は水量が豊富だった。 							
その他							
<ul style="list-style-type: none"> ・初めてとなる今回の交流山行に、厚木山歩会から2名(平均年齢 73.5 歳)参加された。H 食当の献立により美味しく、楽しく、ひとつの鍋を囲みながら懇談できたことは有意義だった。組織は違っても山に登るころは一つであることを実感した。 以上							